

横地分類(改訂大島分類)

「移動機能」、「知能」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

＜知能レベル＞					
E6	E5	E4	E3	E2	E1
D6	D5	D4	D3	D2	D1
C6	C5	C4	C3	C2	C1
B6	B5	B4	B3	B2	B1
A6	A5	A4	A3	A2	A1

簡単な計算可
簡単な文字・数字の理解可
簡単な色・数の理解可
簡単な言語理解可
言語理解不可

＜特記事項＞
C:有意な眼險運動なし
B:盲
D:難聴
U:両上肢機能全廃

寝返り不可
寝返り可
座位保持可
室内移動可
室内歩行可
戸外歩行可

＜移動機能レベル＞

いぶん違います。健常乳児と似たところはあるかもしれませんが、同じように考えるのは間違いです。その人なりの人生経験が反映されているでしょうし、脳障害による変容はあります。このように、その人に最適な満足感・達成感の活動の選定は簡単なことではありません。しかし、この提供は、私たち施設職員の最も重要な責務です。その実践能力が高められるよう努めます。

すばるの

日常生活紹介

高木 智美

すばるは、入所者21名(横地分類A1が11名、A2が6名、B1が2名、D1が2名)が生活しているゾーンです。利用者一人ひとりが楽しんで興味関心を持てるような活動を提供しています。Aさん(横地分類A1)は、人の動きを目でよく追います。色鮮やかな絵本やミッフィーの起き上がりこぼしの動きを

見えています。日常生活では、色鮮やかで動きの変化があるものがよいと思います、レインボースプリングを使った活動をしています。縮めた状態のレインボースプリングをAさんの前におくとジッと見ます。広げると手足を動かして一瞬びつくりした様子が見られますが、すぐに体の動きを止めてスプリングに注目します。閉じたスプリングを床からゆっくりと上方に引き上げたり、上方から下方に広げたりすると、その動きに合わせて頭や体をゆっくりと動かし真剣な表情で目で追っています。スプリングを閉じると少し間をおいて笑顔になります。色や動きの変化を見ておもしろいと感じているようです。

Bさん(横地分類A1)は、人の声や音が聞こえると、音のする方向に目を動かして集中して聴いている様子が見られ、音や言葉のリズムを楽しめるような日常生活を行っています。三三七拍子のリズムで木魚を叩きはじめると、ハツとしたように目を大きくさせて視線を音のする方に向けます。聴いているうちに、徐々に口角が上がり嬉しそうな表情になります。次の音まで間が開くと、真顔になり目をキョロキョロさせて音を探して

います。再び音が鳴ると、音のする方に視線を向けてじっと聴いています。はじまりから終わりまで、音が鳴っている間は、顔や視線を音のする方に向けたままです。音に意識を集中しているのを感じました。

今後も利用者一人ひとりと関わる時間を大切にして、それぞれに合った活動を提供していきたいです。



あおばの

日常生活紹介

加茂 進

あおばは、入所者20名(横地分類A1が11名、A2が2名、B2が1名、C1が2名、C4が1名、D2が1名、D6が1名、E1が1名)が生活しているゾーンです。

Aさん(横地分類D2)は日常生活の理解がほぼできています。問いかけに対してイエスの時は「はい」と声にし、ノーのときは表情をしかめて返答します。自分から言いたいことは文字盤を使って伝えることができます。

Aさんが声を出して職員を呼び何か言いたげな表情で待っています。近づくくと日常活動がしたいというように、すぐそばに置いてある活動道具に視線を移します。

Aさんは絵を描いたり色を塗ったりする活動を行ってきました。現在も「マーブルグ」といって、水面にいくつかの色の絵の具を数滴ずつ落として模様を作り、その上に紙を浮かべて水面に織りなす絵の具の模様を写しとる活動をしています。

Aさんは絵の具セットの中から、最初はオレンジ色、次は緑色、次は赤色・・・と自分の使いたい色を指さして選んでいきます。それから選んだ色を順番に水面のどこに落とすのかを指示します。そして色が水面に落ちる一瞬を見逃さぬように見つめます。それは期待するまなざしのようにあり、色を落としていくうちに出来る模様の想像しているようでもあります。いよいよ色が水面に落ちる瞬間は全身をビクッと緊張させも